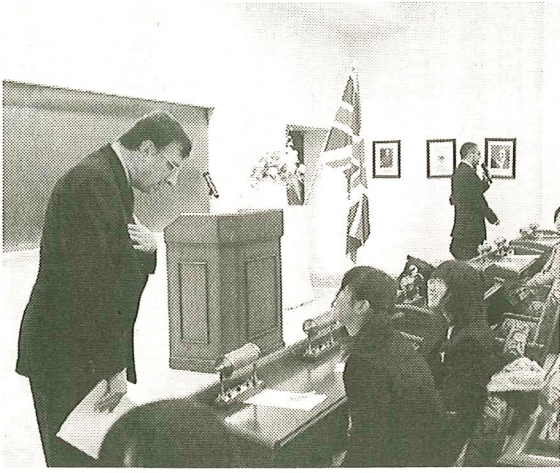


福島の高校生を応援

神田外語グループの英国大使が特別講義

神田外語大学を擁する神田外語グループ(佐野元康理事長)が運営する宿泊研修施設「ブリティッシュヒルズ(BH、福島県天栄村)」は十九、二十日の両日、高校生応援プログラム「福島から世界に飛ばたく君たち」を開催、ディビット・ウォ



「日本は必ず復活する。英国人は日本人とともにある」と高校生を励ますウォレン英国大使

レン駐日英国大使が特別講義を行った。県内の高校生(一、二年生)に応援プログラム参加を呼びかけたところ、一五〇人を超える応募があり、抽選で選ばれた八〇人の高校生が参加した。高校生たちは、四つのグループに分かれて、二日間わたって国際語である英語の必要性、異文化理解の重要性を学んだ。

初日の特別講義で、ウォレン英国大使は「英国に対する理解を深めてもらうため現代英国について話したい」と、こう語りかけた。

「五〇、一〇〇年前に比べ、英国は革新的で刺激的な国になっている。それは、移民が増えたことと関係する。ロンドンでは三〇〇以上の言語が飛び交い、クリエイティブな都市に変わった。また、階級差や格差がなくなった。英王室も半世紀前とは変わり、社会活動に積極的になり環境問題でも発言している。英国紳士の概念も、出身や階層でなく人々から尊敬されるという資質が問われるようになった。」

日本とは、外交や貿易、金融政策などの考え方は同じだし、医学、環境文化についてもお互いに学び合っている。今後とも日英のパートナーシップを強めていきたい。

このたびの東日本大震災で日本人が示した勇気、力、決意に対し、英国国民は敬意を表す。震災の復興、生活の立て直し、経済の回復には日英の絆を強くするのが大事だと思う。日本の大切な友人として、同じ意見を(英国国民が)持っていることを忘れないでほしい。

「このあと、高校生と意見交換が行われた。原発のある大熊町から来た女子高校生は「私は仮設住宅に住んでいます。自宅に帰れない人たちにメッセージをお願したい」と訴えた。

ウォレン大使は「震災後、東北には三回訪れ、仮設住宅も訪問した。日本人は心の強い国民。必ず復活する。英国人は日本人とともにある。英国は、将来にわたって支援、支持していきたい」と答えた。

高校生の主な質問と大使の答弁。「英語を学ぶにはどうしたらいいか?」↓「みなさん、自信を持って学んでほしい。英語を学ぶことが世界へのパスポートになる」、「高校生としてどう生きればいいのか」↓「日本の高校生はもっと旅をすべきだ。それが日本の成長を助けることにもなる」。

講演の後、ウォレン大使は「日本の高校生は礼儀正しく、九〇年代に比べて自信を持っていると

いう印象です。音楽、スポーツ、カルチャーに興味が、世界に興味を持って海外へ飛び出してほしい」と感想を述べた。